2026 年 10 月 27 日

東京海上スマートモビリティ株式会社

日本交通グループの乗務員約 400 名を対象に
健康データと運転データを活用した安全運行管理の共同実証を開始

東京海上スマートモビリティ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：原田　秀美、以下「東京海上スマートモビリティ」）は、2026 年 9 月 14 日（月）から 2027 年 3 月末まで、日本交通グループの改進タクシー株式会社および株式会社ワイエム交通のタクシー乗務員約 400 名を対象に、「MIMAMO WELLNESS（ミマモウェルネス）」を活用した共同実証を実施しています。

本実証では、点呼時等に約 10 秒の測定で把握した乗務員の日々のコンディションを、既存の健康情報も踏まえながら、本人による体調の振り返りや管理者の声掛け、必要に応じた産業医面談につなげます。さらに、健康データと運転関連データを分析し、乗務員一人ひとりに応じた健康支援・安全管理のあり方を検証します。

本実証を通じて、乗務員一人ひとりの健康管理の高度化と事故リスクの低減に向けた取り組みを進め、安全向上と運転寿命延伸への貢献をめざします。

1.　本実証の背景

自動車運送業界では、運転者の健康状態に起因する事故の防止が、安全運行を支える重要な課題となっています。国土交通省は「事業用自動車総合安全プラン 2030」において、運転者の高齢化等を踏まえ、健康起因事故対策の推進を重点施策に位置づけています(※1)。特に、タクシー運転者の平均年齢は 2024 年時点で 60.5 歳と、トラック運転者の 49.7 歳を上回っており(※2)、日々の健康状態を把握し、事故の未然防止につなげる取り組みの重要性が高まっています。

こうした中、日本交通グループでは、2015 年の「ウェルネス経営」宣言以降、健康診断や乗務前の血圧測定、睡眠時無呼吸症候群（SAS）対策等を通じて、健康起因事故の防止と従業員の健康管理に取り組んできました。一方、こうした既存の取り組みに加え、日々変化する疲労やコンディションを捉え、健康面で追加確認・フォローが必要な乗務員を早期に把握することが、事故リスク低減に向けた新たな検討課題となっていました。

今回、こうした課題を踏まえ、東京海上スマートモビリティと日本交通グループは「MIMAMO WELLNESS」を活用した実証を開始しました。同サービスは、乗務員一人ひとりへの機器配布や常時装着を必要とせず、拠点に設置したタブレット端末のカメラを用いて約 10 秒測定することで、乗務員の日々のコンディションを可視化できます。測定結果を本人の気づきや管理者による声掛け、必要に応じた産業医等との面談につなげ、日々の業務の中で継続的に実践できる新たな健康管理の仕組みを検証します。

(※1) 国土交通省「事業用自動車総合安全プラン 2030（概要）」（2026 年 3 月 31 日）。
https://www.mlit.go.jp/jidosha/anzen/news/data/anzenplan2030/about.pdf

(※2) 国土交通省「令和 7 年版交通政策白書」第 I 部第 3 章 図表 1-3-1-5（2025 年 5 月 27 日）。
https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001890733.pdf

2. 共同実証の概要

実施期間　2026 年 9 月 14 日（月）～2027 年 3 月末（予定）
対象会社　株式会社ワイエム交通、改進タクシー株式会社
対象人数　両社に所属する乗務員約 400 名
使用サービス　MIMAMO WELLNESS（ミマモウェルネス）

3. 主な検証内容

- 現場運用への定着性・受容性：
  点呼等の既存業務に約 10 秒の測定を組み込み、乗務員が無理なく継続できる仕組みとして現場に定着するかを検証します。測定実施率や継続率に加え、乗務員・管理者へのヒアリングを通じて、現場負担を抑えながら日常的に運用するための条件を明らかにします。
- 日々のコンディション変化を活用した健康管理：
  MIMAMO WELLNESS の測定結果や月次レポートから日々のコンディションの変化を捉え、健康診断結果等の既存情報も踏まえながら、声掛けや追加確認、必要に応じた産業医面談につなげます。こうした運用を通じて、乗務員一人ひとりの状態に応じた適切なフォローが可能かを検証します。

- 健康データと運転関連データを活用した安全管理：
  取得可能な運転関連データを用いて、急操作や速度傾向等の運転傾向を分析します。MIMAMO WELLNESS で把握する日々のコンディションと組み合わせることで、健康面・運転面の双方から乗務員ごとのリスク傾向を捉え、健康フォロー、運転指導、勤務・休憩の見直し等、一人ひとりに応じた安全対策につなげられるかを検証します。

4. 本実証を通じてめざす姿と今後について

本実証を通じて、乗務員の日々のコンディションの変化に早く気づき、必要なフォローにつなげる健康管理・安全管理のあり方を検証します。こうした取り組みを通じて、自動車運送業界における乗務員一人ひとりの健康を継続的に支援し、長く安心して働ける環境づくりと、お客様への一層の安全・安心に貢献することをめざします。

実証終了後は、日々の測定の定着状況や健康管理への活用状況、健康データと運転関連データの分析結果等を踏まえ、今後の健康管理・安全管理施策への活用や展開可能性を検討します。

「MIMAMO WELLNESS」について

「MIMAMO WELLNESS」は、AI と非接触バイタルセンシング技術を活用し、タブレット端末のカメラを約 10 秒見つめて測定することで、乗務員の日々のコンディションを可視化する健康管理支援サービスです。乗務員が常時身に着けるデバイスを必要とせず、点呼時等の既存業務の流れに組み込んで利用できることが特長です。乗務員は日々の測定を通じて、自身の疲労度・ストレス度・注意力低下リスクなどの状態を確認できます。また、管理者も乗務員一人ひとりのコンディションを客観的に把握でき、乗務員自身のセルフケアと管理者による健康・安全管理の双方を支援します。

「MIMAMO WELLNESS」は、経済産業省の健康経営推進検討会 (※3)において、運輸業界における健康経営の取り組みで活用されるサービスの一例として掲載されています。

(※3) 経済産業省「第 2 回 健康経営推進検討会」資料 2 事務局説明資料（2025 年 3 月 18 日）。
https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/health_management/pdf/002_02_00.pdf

以上